

富士市教育委員会		5月	定例会 臨時会	会議録 (令和8年)	
開催日 令和8年5月19日 火曜日 開 会 14時40分 閉 会 16時14分			会議場 消防防災庁舎3階 研修室		
出席委員の氏名					
教 育 長		太 田 桂	委 員	塩 谷 知 一	
教育長職務代理者		和久田 恵 子	委 員	保 科 悦 久	
委 員		松 田 靖 子			
出席職員等の氏名					
教育次長		味 岡 俊 雄	青少年相談センター所長	松 永 正 之	
教育総務課長		佐 野 睦 昭	文化財課長	植 松 良 夫	
学校教育課長		野 村 直 樹	博物館長	石 川 武 男	
学校管理課長		福 永 正 幸	教育総務課調整主幹	前 田 澄	
社会教育課長兼青少年教育センター所長		渡 辺 哲 成	教育総務課参事補	寺 内 浩 二	
中央図書館長		桑 原 正 壽	教育総務課主幹	井 上 美乃里	
富士市立高等学校事務長		榎 俊 英	教育総務課指導主事	瀧 南	
教育研修・特別支援教育センター所長		若 月 佳 妙	教育総務課統括専門員	久保田 伸 彦	
			傍 聴 人	1 人	
議題（動議）及び議事の概要					
（議 案）					
議第26号 令和8年度教育委員会所管6月補正予算について					
議第27号 富士市立中学校部活動地域展開協議会委員の委嘱又は任命について					
議第28号 富士市社会教育委員の委嘱又は任命について					
議第29号 富士市図書館協議会委員の委嘱又は任命について					
議第30号 富士市立高等学校学校運営協議会委員の委嘱又は任命について					
議第31号 富士市青少年相談センター運営協議会委員の委嘱又は任命について					
（報 告）					
報第2号 令和7年度教育施策の自己点検・評価について					
作成者		瀧 南	署名人		塩谷 知一
					保科 悦久

「開会」

教育長

それでは、定刻となりましたので、ただいまから教育委員会会議、5月定例会を開会します。

「会議録の承認」

教育長

会議に入る前に、前回の4月定例会会議録の承認を行います。会議録については、既にお目通しのことと思います。前回の会議録を原案のとおり承認してよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

原案のとおり承認することといたします。

「教育次長の報告要旨」

教育長

続きまして、教育次長から報告等がありましたら、お願いします。

教育次長

私から、議会の関係で2点御報告させていただきます。

まず、1点目です。

市議会6月定例会が6月12日から29日の間、開催されます。この期間中、6月16日に産業教育分科会、委員会の開催が予定されており、この分科会において補正予算等の説明・審議が行われます。

また、同日の委員会終了後に産業教育委員会協議会の開催をお願いし、小中学校適正規模・適正配置基本方針の見直しと、再編計画の策定に関するスケジュール等について説明したいと考えております。

なお、6月定例会における教育委員会関係の議会質問の答弁要旨につきましては、議会終了後の教育委員会7月定例会に提出させていただきたいと考えておりますので、御了承ください。

以上で報告を終わります。

「議事の概要」

教育長

これより議事に入ります。本日は議決案件6件と報告事項1件、合計7件が提案されております。

本日の定例会の会議録の署名人を指名いたします。塩谷知一委員と保科悦久委員をお願いします。

教育長

それでは審議に移ってまいりたいと思います。

初めに、議第26号「令和8年度教育委員会所管6月補正予算について」

を取り上げますので、事務局の説明をお願いします。

教育総務課長の説明

（議第 26 号 令和 8 年度教育委員会所管 6 月補正予算について説明する）

教育長

これより議第 26 号案に対する質疑を行います。御質問等はございますか。

保科委員

小学校の校舎の改築のところで、設計施工のところが一括発注から分離発注になったことは分かりますが、これによって、何か得が出るのでしょうか。

学校管理課長

得が出るかという御質問ですが、中東情勢の影響もあり、プロポーザルの過程で業者から話を伺ったところ、数年後の建設工事費を現段階で算出するのは難しいということでした。実際、現在の工事費でさえ算出が難しい状況だというお話も聞いております。

このような状況のため、設計については中東情勢の影響を受けないことから、まず工事費のかからない設計作業を今年度と来年度で進めます。その上で、設計内容が固まり、金額が明確になった段階で、改めて工事費を算出する流れとなります。

おそらく 2、3 年後の単価が今よりも安くなっているというところは想像しにくい中で進んでおりまして、現状よりも金額が増えてしまうかもしれないと考えております。

塩谷委員

今回の補正予算の中の歳入、国庫支出金の地方スポーツ振興補助金と、歳出の一番上の認定地域クラブ活動費補助金は対応しているのですか。市で出したものの一部が払われるという理解でよいのか、別なのか、その点の説明をお願いしてもよろしいですか。

教育総務課長

今回の歳入予算と歳出予算の関係につきましては、歳出予算の一部の財源として、この補助金を充当することになっております。

まず、歳入のうち地域クラブ活動参加者支援補助金につきましては、国の補助率が 2 分の 1 となっております。そのため、歳入額の一番上の 40 万 6 0 0 0 円と、その 2 つ下の段にあります 27 万 1 0 0 0 円を合計すると、歳出の地域クラブ活動参加者支援補助金 135 万 6 0 0 0 円の約半額ということになるかと思えます。

一方、歳入の２段目にある認定地域クラブ活動費補助金は、歳入額が２６万円で、歳出額の認定地域クラブ活動費補助金５５５万円に対しては不足している状況です。国・県の補助金についても申請しましたが、県の補助金の関係もあり、文化については２６万円が採択されたものの、スポーツについては今回の富士市の申請が採択されなかったため、このような差が生じております。

しかしながら、本市としては、地域クラブが円滑かつ持続的に運営できるようにすること、また参加する保護者の参加費負担をできるだけ抑えることを目的としております。そのため、今回この歳出予算を計上し、議会に御審議をお願いしたいと考えております。

塩谷委員

分かりました。その差額分は、市独自の予算で補填するという形になっているのでしょうか。

教育総務課長

はい。

松田委員

歳出の最後の部分にあります、３月に発生した雷による修繕についてですが、これは保険対応ではないのでしょうか。また、少年自然の家ということで、管理業務のどの部分に該当するのか、この費用が発生している点について確認させていただきたいと思います。保険対応ではなかったのでしょうか。

社会教育課長

保険対応にはなりますが、あくまでも支出するのは市になります。保険で充当される可能性はありますが、市が契約してお支払いをするという形になりますので、このように費用を計上しております。御了承いただければと思います。

教育長

ほかに御質問はよろしいでしょうか。ほかに御質問がないようですので、議案に対する質疑は終了いたします。それでは、議第２６号案は原案どおり承認してよろしいでしょうか。

（委員から「異議なし」の声あり）

教育長

御異議なしと認め、議第２６号案は承認いたしました。

次に、各種委員の委嘱等についての議案５件をまとめて取り上げます。議第２７号案から議第３１号案までについて、事務局から説明をお願いい

たします。

教育総務課長の説明

（議第２７号 富士市立中学校部活動地域展開協議会委員の委嘱又は任命について説明する）

社会教育課長の説明

（議第２８号 富士市社会教育委員の委嘱又は任命について説明する）

中央図書館長の説明

（議第２９号 富士市図書館協議会委員の委嘱又は任命について説明する）

市立高等学校事務長の説明

（議第３０号 富士市立高等学校学校運営協議会委員の委嘱又は任命について説明する）

青少年相談センター長の説明

（議第３１号 富士市青少年相談センター運営協議会委員の委嘱又は任命について説明する）

教育長

これより議第２７号案から議第３１号案までに対する質疑を行います。御質問等ございますでしょうか。

ないようですので、議案に対する質疑は終了いたします。

それでは、議第２７号案から議第３１号案までの５件は原案どおり承認してよろしいでしょうか。

（委員から「異議なし」の声あり）

教育長

御異議なしと認め、議第２７号議案から議第３１号議案は承認いたしました。

次に、報第２号「令和７年度教育施策の自己点検・評価について」事務局の説明をお願いします。

事務局関係課長の説明

（報第２号 令和７年度教育施策の自己点検・評価について報告する）

教育長

ただいまの事務局からの報告に、御質問はございませんか。

塩谷委員

18ページの②「習得・活用・探究による学びの深化」のところの数字がすごく気になっています。探究的な学びという教育の本質に関わる項目で、指標が「習得・活用・探究の学習過程を見通した指導改善の工夫をした」に「よく行った」と回答した学校の割合」となっていますが、この数値が非常に低いことが気になります。特に中学校を見ると、実績もどんどん下がってきている状況です。

ここまで低い原因はどこにあるのか、なぜ「よく行った」と回答する学校が少ないのか。実際には「まあまあ行った」という回答を含めれば、もっと取り組んでいる学校もあるのかもしれませんが、それにしても気になる数字です。例えば、先生が忙しくて時間が取れない、教材が使いにくいなど、様々な要因があるのではないかと感じています。

指導主事もいらっしゃるわけですから、この数字が上がってこなければ、富士市の教育全体のレベルが下がってしまうことにもつながりかねません。毎年これだけ低いという原因、そしてどのような取組を行えば改善につながると考えているのか、もしお考えがあればお聞かせいただければと思います。

学校教育課長

御指摘をありがとうございます。この「習得・活用・探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫」につきましては、次期2030年の学習指導要領でも教育改革の核として位置づけられており、全国的にも定着が非常に難しい内容で、次年度以降にも継続して取り組むテーマとなっています。

私たち教育委員会でも、この内容をよりかみ砕いて学校に指導したり、研究指定校がこのテーマで研究を進めたりと取り組んでいます。分かりやすく申し上げますと、取り組めば取り組むほど難しさが明らかになってくる、いわば迷走している部分もあるというのが実情です。

知識を習得し、それを活用しながら、自ら課題を見つけ、さらに深い学びへと進んでいくというのは、子どもに相当の力が必要ですし、教員もカリキュラムや環境を整え、自ら学び続ける姿勢が求められます。そのための準備が十分でないと、なかなか実現が難しいところがあります。

また、先ほど園と小学校の架け橋カリキュラムの話もありましたが、園での取組の中にヒントがあるのではないかという視点も持ちながら、先進地の事例を学び、教育長の指示も受けながら、改善策を検討しているところ です。

次年度もこの内容は柱となるため、外すことはできません。数値が上がるように、様々な方策を活用し、関係者全員で相談しながら着実に前に進めていきたいと考えております。

塩谷委員

丁寧な説明ありがとうございました。確かに指標自体が何を求めているのか難しい面もあるかもしれませんが、これは本当に子どもたちに直結する、富士の子どもたちの教育そのものに関わる部分だと思います。探究的な学びはおっしゃるとおり核となる部分であり、さらに非認知能力を育てていく上でも、先生方の自信や取組がしっかりと上がってこないと、子どもたちの学びにも影響が出てしまいます。

ここはぜひ、今年度さらに力を入れて研究を進めていただければと思います。よろしくお願いします。

教育長

私の方からも申し上げますが、各教科の授業では、習得と活用の反復についてはかなりできていると思います。ただ、各教科で探究の部分をつどの単元で行うかについては、全ての単元で「習得・活用・探究」まで行う授業の時間はありません。どの単元で探究まで取り組むのか、各学年・各教科でターゲットを決めて進めていく必要があります。全ての単元でこれを行うのは難しい、ということを御理解いただければと思います。

また、探究に最も取り組みやすい教科は、生活科や総合的な学習の時間です。これらの教科では比較的時間が確保できるため、探究まで取り組んでいる例が多く、学校訪問を通してそのような感じています。

この質問の仕方も難しいと思います。各教科、各単元で「習得・活用・探究」のサイクルを回すことを前提にすると、現場としては難しいということもあります。そのため、例えば中学校1年生の歴史のどの部分で深い探究まで取り組むかは、学校や授業者に任されているところが大きく、それぞれ工夫しているところです。今後も学校教育課教育指導室が中心となり、指導・助言を行いながら取組を進めていければと思います。

野村課長の言うとおおり、次期学習指導要領でもこの方向性は変わらないと明示されていますので、これは必ず取り組まなければならない内容です。引き続き力を入れて進めていきたいと思っています。

ほかに御質問はありますか。

松田委員

今、事務局からの説明を受けて、内容からBではなくB★でもよいのではないかと思う箇所がありました。

まず、13ページの③「地域とともにある学校づくり」です。現時点で「コミュニティ・スクールの理解を深めているところ」は100%になっています。次の課題が出てきている点は理解していますが、それでも評価はBになるのでしょうか。次の課題に向けて取り組んでいるという意味では、評価の付け方としてB★にして、次の課題により深く進んでいくという形でもよいのではないかと感じました。

次に、15ページ「学びのセーフティネットの充実」です。ステップス

クール・ふじでは、昨年度まで中学生への対応がしっかり進み、課題として小学校低学年の児童への対応に取り組んでいるとのことでした。そうであれば、一つの段階はクリアしていると考えられるため、ここもBではなくB★という評価でもよいのではないかと、という印象を持ちました。

富士市として新たな課題を発見し取り組んでいるという意味でも、プラス評価があってもよいのではないかと思います。他にも同様に感じた箇所がいくつかありました。

最後に、7ページについてです。以前の会議で、教育委員の活動の評価欄の書き方について、「第三者が書いたような書き方は避けた方がよい」という御指摘があった記憶があります。大項目1の「教育委員が～」という表現について、国語的な問題かもしれませんが、少し気になりましたので、表現として適切かどうか検討いただきたいと思います。

教育長

今御指摘があった項目についても、外部評価委員の方々にも御確認いただき、その上で最終的に評価を判断し、議会に提出するという流れでよろしいでしょうか。

塩谷委員

私も松田委員とまったく同じ意見です。「地域とともにある学校づくり」についてですが、昨年の外部評価委員会でも「学校運営協議会をもっと活用できるのではないか」という御意見をいただきました。その点を受けて、事務局や学校の皆さんが様々な取組を行ってきた結果、今回の進捗率が100%という非常に高い数字になっているのだと思います。これはすばらしいことであると思います。

ただ、ここをBとしてしまうと、次の展望が少し見えにくくなるように思います。中身を見ても、課題があるとはいえ、それらの課題を受け止めてクリアしてきた面もありますので、ここはB★としてもよいのではないかという思いを私も持ちました。

その他の項目についても、評価が厳しいところ、逆に評価されているところなど様々ありますが、全体を踏まえて御対応いただければと思います。

教育長

今いただいた御意見を踏まえて、書きぶりの見直しと、特に13ページの「地域とともにある学校づくり」、15ページの「学びのセーフティネット」については、もう一度協議した上で、外部評価委員の皆様にも修正案を御確認いただき、その方向で進めていきたいと思っています。

教育長

他に御質問はございますか。よろしいでしょうか。

質問がないようですので、報第2号は了承いたします。

これをもちまして本日の審議事項は全て終了いたしました。
引き続き、各課等の予定事項をお願いします。

教育総務課長、学校教育課長、学務課長、社会教育課長、文化財課長、
中央図書館長、富士市立高校事務長、教育研修・特別支援教育センター所
長、青少年相談センター所長、博物館長の順で説明

文化財課長

今月 9 日、市指定史跡・千人塚古墳から出土した金銅製帯金具が、百済由
来の非常に珍しい出土品であることが判明し、現在、博物館にて 24 日まで
速報展示を行っております。

9 日には、この出土品に関連してミュージアムトーク（展示解説）を実施
しました。当初は 1 回の予定でしたが、非常に多くの来館者があったため、
複数回に分けて実施いたしました。また、来週日曜日の 24 日にも同様の解
説を行う予定です。

博物館本館の来館者数ですが、通常は 1 日平均 170～180 人程度のと
ころ、9 日は 991 人、10 日は 690 人と、非常に多くの方に御来館いた
だきました。

また、6 月からは市民歴史講座を毎週水曜日に実施し、7 月までに計 5 回
開催する予定です。

なお、先ほど申し上げた速報展示の出土品につきましては、次回の教育委
員会議の前に、教育委員の皆様にもぜひ御覧いただきたいと考え、見学の機
会を計画しております。どうぞよろしくお願いいたします。

教育研修・特別支援教育センター所長

前回御質問のあった令和 7 年度のアフター 5 講座について御説明いたし
ます。

まず、一覧表に基づきアフター 5 の実績について御報告します。アフター
5 講座の内容ですが、「授業づくり講座」から「園小接続講座」まで、計
32 講座を実施しました。英語については、ALT が学校を訪問する訪問型
の研修会を 21 回行い、延べ 935 人の参加がありました。ただし、例年は
延べ 1,000 人を超えることが多いため、この点は課題として捉えていま
す。

その課題の背景として、昨年度から教員免許更新の研修がなくなり、「全
国教員研修プラットフォーム」が開設されました。今年度はそのシステムを
利用して申込みを行うようにしましたが、教員が研修履歴を残すためにはこ
のインターネットシステムを利用する必要があります。しかし、ログインや
パスワード入力の手間から申込みが進まないという状況が生じました。

以前行っていた F A X 用紙での申込みに比べると、周囲の先生同士で「一
緒に行きましょう」と誘い合える機会が減り、参加しにくくなった面もあり
ました。そのため、申込み方法を以前の形に戻し、参加者数は少しずつ回復

傾向にあります。

昨年度、参加者数が最も多かったのは、不登校をテーマにしたトピック講座で、サンビレッジのドクターを講師に招いて実施したこともあり、先生方の関心も高く、５８人の参加がありました。

続いて、初めて実施した管理職向けの学校経営講座です。教育研修センターには退職された校長先生方が指導主事として在籍していることから、その方を講師として学校経営の研修会を行い、５３人が参加しました。

次に多かったのは園小接続の講座です。静岡大学の田宮教授を招いて行った研修会で、園からの参加もあり、３日間で多くの方に参加していただきました。

今年度もアフター５講座については、引き続き充実した内容の講座を行いたいと考えております。５月にも研修会があり、参加者はそれぞれ３０人、４３人となっております。

教育長

他に御質問はございませんか。

ないようですので、次回の教育委員会会議の日程を申し上げます。

６月２２日月曜日、午後２時１５分から吉原北中学校会議室にて教育委員会会議を開催いたしますので、よろしくお願いいたします。

本日は長時間にわたり御審議いただきありがとうございました。これをもちまして、本日の定例会を閉会とさせていただきます。